

生物介在療法学特論(二) (2単位)

担当者氏名 浅野 房世

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

人間と植物の関係を療法として活用した歴史は古い。なぜ人は、植物から癒しを受けられるのか？あるいはそれを療法として、活用するという行為は、何なのか？もっとも必要とされる植物介在療法のスキルとは何なのか？これらのことを踏まえながら、植物を療法的に用いることの人間学的意味や、どのような治療構造のもとにおこなわれるべきかを学ぶ。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

人間とヒト ヒトの発達 情感

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	ガイダンス	・	人間と動物の違いを踏まえ、人間が人間らしく生きるための植物介在療法をまなぶ
2	植物介在療法における	ヒトから人へ発展	
3	人間の進化と発展 (1)	歩行は何を与えたか？	
4	人間の進化と発展 (2)	咽頭の構造と言葉	
5	人間の進化と発展 (3)	意思を伝える発達	
6	人間の進化と発展 (4)	自己意識の芽生え	
7	癒しから療法への転換 (1)	他者を癒す意識	
8	癒しから療法への転換 (2)	人間の癒しと動物の癒し	
9	癒しから療法への転換 (3)	癒しはいつから始まるか	
10	癒しから療法への転換 (4)	植物による癒しとはなにか	
11	治療構造 (1)	植物を活用する治療とはなにか	
12	治療構造 (2)	必要な治療構造	
13	治療構造 (3)	治療構造と環境の関係	
14	治療構造 (4)	患者を取り巻く様々な人間 (人の治療構造)	
15	とりまとめ	園芸などを趣味として扱うのではなく、療法として扱う場合の留意点 (チーム医療での植物介在療法は、どうあるべきか)	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

生きられる癒しの風景 (人文書院)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

風景論、癒し、進化などの関係書籍

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

レポート

◆オフィスアワー

メールで確認の上、研究室を尋ねる

◆その他受講上の注意事項

授業の内容について質問は、メールで確認し、必要があれば面談を行う
